

風の流

◆ 一般投稿作品 ◆

広報委員会 選

初桜夕月匂うばかりなり
心電図着けてより吹く涅槃西風
梅一枝厨に付けて春待つや
ペンキ塗る春めく光背に浴びて
想い出の庭に咲きたる福寿草
宇宙との交信続く花ぐもり
福詣り福を授かり佳き日なり
裏庭に人しれず咲く寒椿
豆まきの声高らかに長屋かな
蟹に似て生えかわる爪日脚伸ぶ
空風や帽子飛び去る遊歩道
雪柳可憐に伸びて娘は嫁ぐ
寒風の中に日差しは輝きて
初春や観音岩の波太鼓
書長閑訪へば老犬退り込む

◆ かがみ野俳句会 ◆

ふる里を恋ふる歌碑あり鳴の声
露の葦羽織りしベール薄衣
梅匂ふ仏間の夫におはようと
袈裟タンスに眠り三十年
残生もかくありたしや野水仙
下萌の野にかすかなる水の音
流木は骨密度一〇〇春の雪
母の顔皺をのぼして日向ぼこ
啓塾や黙って事を仕始めむ
草萌ゆるメリケン波止場由来の碑

森本 純喜
岡田美代子
楮佐古きよ
千頭 野草
北村千鶴子
山崎 貴子
原 美幸
白井 幸子
小原 景守
福留ものり
山本 太幸
森本 幸美
小原 子川
中村 辨吉
高野 和一

◆ かほく俳句会 ◆

佐竹 洋子
鍵山 和枝
佐藤 幸
利根 弘子
古川 信子
小松 愛子
中澤 美晴
森本 健代
山崎 鈴子
吉田 芳

春炬燵妻と見蕩れる龍馬伝
春寒し母の残せし六神丸
文旦の剥き方教ふ土佐言葉
風光る馬酔木の房のゆれてをり
廃校へがっこうばしや鴨帰る
水よりも淡き光りの猫柳
本堂へ先づご挨拶寺の春
咳こぼしつづつ梅園の人となる
パン工房枯山の色麓まで
ぎこちなき手話の通じて浅き春
登山客行き交ふ里の福寿草
開け放ち仏壇掃除風光る
凜として夜を制する冬の月
風光る宰相の像故山見る

乾 真紀子
奥宮さとみ
久保内鏡子
黒岩 幸女
黒岩千英子
小松 完
小松 隆之
小松 昇
杉山 春萌
野村 里史
前田 欣一
前田 秀女
間崎 和代
森本 之子
山崎かずみ

◆ 俳句会 ◆

吉村 幹愛
公文 春紀
岡本かほる
高橋 章
北村 幸子
西川 常夫
篠崎 垂希
甲藤 卓雄
野崎 典子
北村 里子
明石 英子
小野川順子
前田 芳子
竹内 ろ草

冬座敷遊びの後の襖疵
恋猫の声の響きぬシャッター街
食積や戦禍潜りし重箱に
◆ 土佐山田町俳句会 ◆
奇声あげ秋葉祭りの油売り
車椅子ゆつくり向きかえ春の日へ
七草の名札大きく無人店
能面の女怖ろし冷雨の夜
朝市の策に跳ねる春の鰯
土未踏見せて跳ねるや田楽舞
寒月へ後部車両切り離す
涅槃図のまこと知るべく近寄りぬ
春星へ女膝立て手紙燃す
年の豆噛める固歯の残りをり

明石 蕪生
中沢としみ
森田 菊恵
前田 小夜
大石 邦男
安丸 慎子
前田美智子
橋本 昭和
樫谷 雅道
田村 一翠
山中 晶子
山中 瑞輝
山中 明石

◆ 今月のキラリ ◆

雪柳可憐に伸びて娘は嫁ぐ
春風にゆれる純白の雪柳の可憐な姿。その花に嫁ぎゆくわが娘を重ね、切ない親心を詠んだ一句。

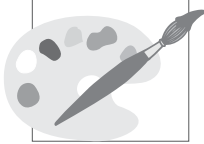
俳句・短歌の投稿方法

▼ 投稿方法は自由。(ただし、ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで5句(首)以内)
▼ かい書で、住所、氏名、電話番号を必ず明記してください。
▼ 俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
▼ 誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

〒782-18501 (住所不要) FAX 53・5958
投稿先 企画課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係

香美市立美術館

アートの窓



今年度最初の企画展は、季節に合わせ、桜の花を描いた作品で有名な岸田夏子(東京都在住)の絵画27点をご紹介します。

1940年和歌山県生まれの岸田夏子は、63年東京芸術大学絵画科油絵専攻(林武教室)卒業後、65年に同大学院を修了。84年東京銀座の資生堂ギャラリーから始まり、銀座・吉井画廊、日本橋高島屋美術画廊、日本橋三越本店美術特選画廊等での個展、国内外でのグループ展を中心に数多くの作品を発表してきました。99年から01年は尾道白樺美術館、00年から05年は清春白樺美術館の館長を務め、また05年には日・EU市民交流年のイベントのひとつとして、首都ブリュッセルにて個展(ベルギー大使館主催)を開催し、好評を博しました。

洋画家・岸田劉生は祖父であり、母・麗子の幼い姿

「2010年 岸田夏子の世界展」

4月4日(日)～5月16日(日)



▲ 醍醐寺の春 岸田夏子

を描いた『麗子像』はあまりにも有名ですが、岸田夏子も麗子をテーマにした一連の人物像を描いています。また、冬の雪山や秋の紅葉、春の桜と、自然をテーマにした作品も多く手がけ、その中でも、特に京都・醍醐寺の桜や、山梨・清春の桜を繰り返し描いています。描く対象への熱

く深い思いが、画面から溢れ出るようです。「刻」をテーマに、自然(人間も含む)を描いた作品では、自己を追求し、人生の深さを追い求めています。桜は人の心を表し、春に再生する花は年毎に変わっていきませんが、その姿に人間の生を重ね合わせているようです。

写真の作品は、京都・醍醐寺霊宝館の桜を描いた大作「醍醐寺の春」(162・1×354・5cm)です。岸田夏子はこの作品の制作にあたり「それぞれの土地で生まれ育まれた植物には、それぞれの歴史があり、それなりの理由があつて、今の姿があるのだとつくづく思い至らされ、深い感動とともに愛着を覚えた」と語っています。歴史ある古木の満開の桜は圧巻です。

「今年のお花見は香美市立美術館で！」ご家族おそろいでお越しください。お待ちしております。(館長・北 泰子)

吉井勇記念館だより

毎月コンサート

今年もヴァイオリンの野外コンサートを開催します。季節を感じさせる日本の曲のほか、よく耳にする外国の曲が演奏されます。山里でゆつくりと流れる時間と音楽を、心と体で感じてください。

【日時】5月16日(日) 13時～13時50分
・ 学芸員展示解説
・ ヴァイオリンコンサート
14時～15時

【場所】吉井勇記念館

【参加費】400円(入館料含む)

【内容】

ヴァイオリン奏者：古江佐和子氏(猪野々在住)
演奏曲：ケセラセラ・イパネマの娘・もののけ姫 他

【送迎バス】定員20人 ※会場の人数制限はありません。自家用車でもご来場いただけます。

【問い合わせ・申込先】

市立吉井勇記念館
58・2220

送迎バス運行表

| | |
|--------------|-------|
| (往) 香美市役所 | 12:00 |
| 健康福祉センター香北 | 12:20 |
| 奥物部ふれあいプラザ | 12:40 |
| (復) 吉井勇記念館 発 | 15:20 |

※バス利用希望者は5月10日(月)迄に記念館までお申し込みください。

▲ 昨年のコンサートの様子

